

## 平成29年度 第2回過疎問題懇談会 議事概要

(開催要領)

1. 開催日時：平成29年10月2日(月) 10:00～12:00
2. 場 所：中央合同庁舎4号館1階108会議室
3. 出席者
  - ・座長：宮口 侗迪 早稲田大学名誉教授
  - ・委員：青山 彰久 読売新聞東京本社編集委員
  - 太田 昇 岡山県真庭市長
  - 梶井 英治 茨城県西部メディカルセンター病院長
  - 作野 広和 島根大学教育学部教授
  - 佐藤 宣子 九州大学大学院農学研究院教授
  - 高橋 由和 NPO法人きらりよしじまネットワーク事務局長
  - 谷 一之 北海道 下川町長
  - 沼尾 波子 東洋大学国際学部国際地域学科教授

(議事次第)

- 1 開会
- 2 議事
  - (1) 平成29年度の過疎問題懇談会について
  - (2) 厚生労働省による説明
    - ・過疎地域における地域福祉、地域介護の現状と課題
    - ・へき地医療の現状と課題
  - (3) 文部科学省による説明
    - ・小中学校及び高等学校の統廃合の現状と課題
    - ・過疎地域における高等教育環境の整備に係る現状と課題
    - ・社会教育施設(公民館)の現状と課題
  - (4) 過疎地域の現況(福祉・医療、教育関係)
- 3 閉会

(資料)

- 資料1：過疎問題懇談会の進め方(案)
- 資料2-1：過疎地域における地域福祉、地域介護の現状と課題
- 資料2-2：へき地医療の現状と課題
- 資料3-1：小中学校及び高等学校の統廃合の現状と課題
- 資料3-2：地方大学による地方活性化
- 資料3-3：公民館の現状と課題
- 資料4：過疎地域の現況(福祉・医療、教育関係)

(議事概要)

【議題1 平成29年度の過疎問題懇談会について】

○主な意見等

- ・特に意見なし。

【議題2 厚生労働省による説明、議題3 文部科学省による説明、  
議題4 過疎地域の現況(福祉・医療、教育関係)】

○主な意見等

- ・特色ある高校を整備することで、地域に人が集まってくる。高校の寮の整備や、特色ある取組を行うための教員の加配を考えていくべき。
- ・仕事が無いので、大学進学を機に地域から人が出て行ってしまうと言われるが、産業面だけを考えずに、自分たちの地域を大切にしようという意識を育てることが必要である。サテライト方式によって地域で学習するという方法があっても良い。
- ・ライフスタイルの多様化などによって、小規模でローカルに面白い特徴的な教育をする事例などが増えてきている。このような取組に専門家がうまくかわりながらネットワークをつくっていくことが大事。そのためには、ナショナル・スタンダードをフルセットで整備するためにどうしていくかではなくて、地域に応じた柔軟な対応や規制緩和の仕組みが重要。
- ・制度としては地域の自由に計画することができるようになっているものもあるが、地域の方が自由に計画する力をつけていく必要がある。
- ・都市と地方の大学進学率の格差が広がっているという点は問題。この部分については、格差の是正を図っていくことが重要。
- ・へき地診療所をどうするのが課題である。へき地は患者も少なく、医師のモチベーションを保つことも課題である。いくつかの地域でネットワークを作り、例えば、1箇所の診療所に3人医師がいれば、お互いにカバーして地域に出て行って診療するというやり方も考えられる。
- ・地域における生活支援のコーディネートや、人材育成のための施策が必要。公民館は、地域のネットワークのつなぎ役であるが、その役割を、公民館の職員が担うのか、それとも、コミュニティ・センター化して地域運営組織が指定管理者などとして担っていくのか、という論点がある。一方で、現場レベルでは、分野横断的に取り組む人材の確保が難しい。

以上